



平成29年度全国学力・学習状況調査結果を活用!

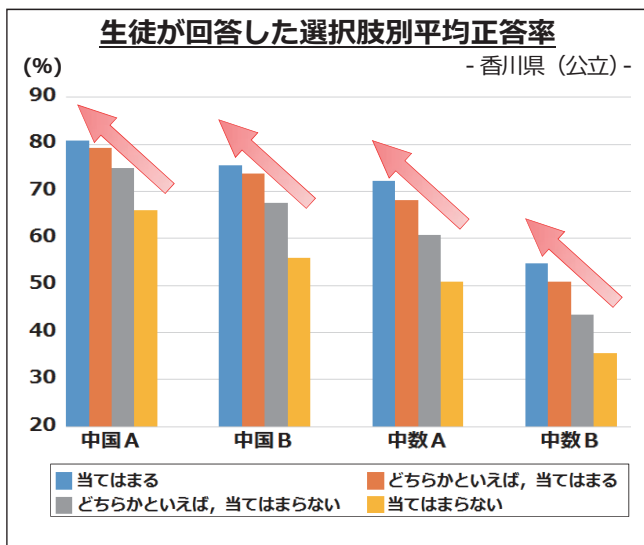
学びの楽しさ実感! あこがれの授業づくり

～「学びの質」を高めるアプローチ～

このリーフレットは、「平成29年度全国学力・学習状況調査報告書」をもとに、学ぶ意欲や学習に向かう態度、確かな学力を育成する授業改善等の手立てを、香川県教育センター協力学校※の実践から取り上げました。

※香川県教育センター協力学校：各校の貴重な実践事例から調査研究を進めるために、協力依頼した学校。

□55/57 授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか 【児童生徒質問紙】(中学校)



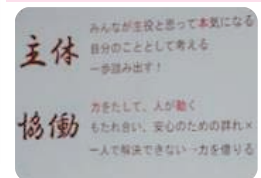
報告書 p24-25 基礎基本 p18-19

事例) さぬき市立さぬき南中学校

めざす生徒の姿を校内で共有し、その姿を発揮できる場の設定



入学式等で、めざす生徒の姿を提示し、全校生徒、全教職員が共有する。



各縦割り班に、行進、応援、生徒会種目の企画運営を委ねる。

報告書 p42 調査研究 p44-45

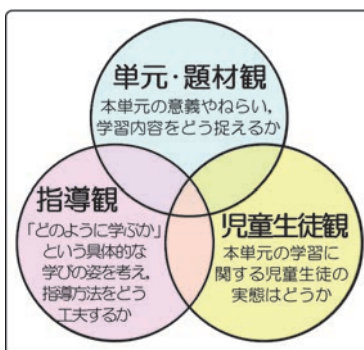


クラスから出された提案を全校生で話し合う。

活用にあたって

各ページは、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら授業を構想していくにあたって前提となる単元・題材観、児童生徒観、指導観の3点からそれぞれまとめています。

また、実践の手掛かりとして県内小・中学校の事例を掲載しています。実践にあたっては、同僚との研究協議から学んだり、リーフレットに示した右の資料の関連ページを参考にしたりしてください。



調査研究 p19 新教員 p10-12

- 報告書** 香川県教育センター
「平成29年度 全国学力・学習状況調査報告書」
- 基礎基本** 香川県教育委員会
「さぬきの授業 基礎・基本〔改訂版〕
～子どもに学びのときめきを～」
- 調査研究** 香川県教育センター
平成28年度 研究成果報告書
「『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業づくり」
- 新教員** 香川県教育委員会
「平成29年度 新しく教員となったみなさんへ」

※このリーフレットには、左のマークと該当ページを記載しています。

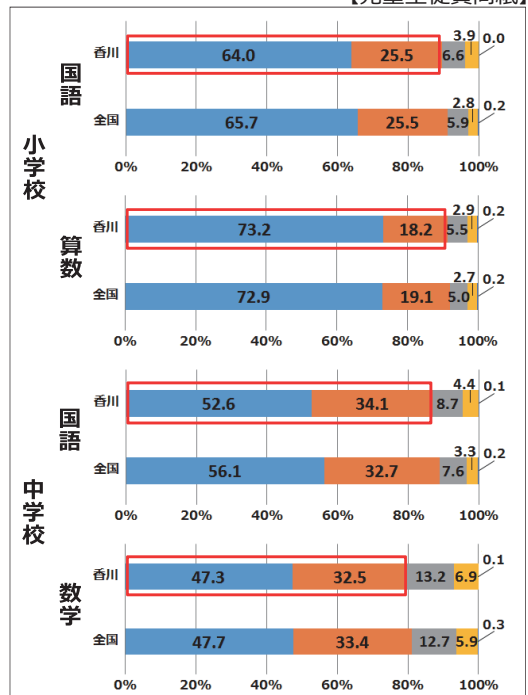
単元・題材観

単元・題材観
本単元の意義やねらい、
学習内容をどう捉えるか

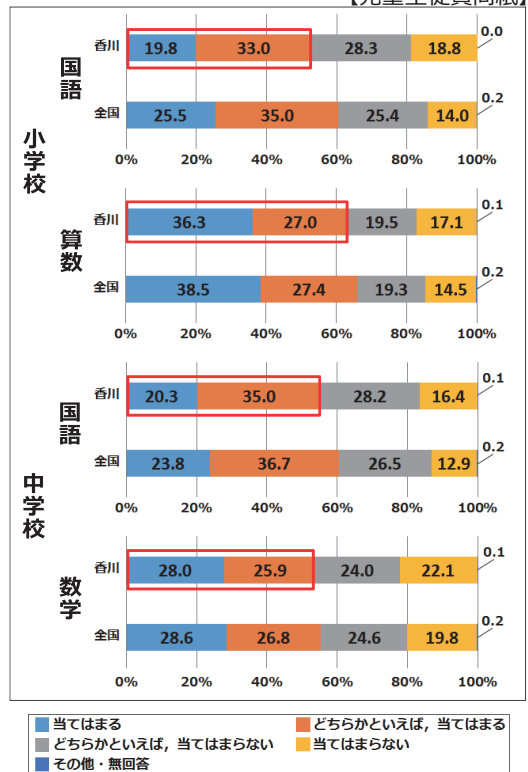
香川県の児童生徒の8～9割は、国語や算数・数学の勉強は「大切だ」と肯定的に回答しています。一方、「好きだ」と肯定的に回答した児童生徒は、5～6割程度となっています。

児童生徒の学習意欲を高めるために、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にして、「自分で選択したり判断したりできる（自律性）」「できるようになりたいと感じている（有能感）」「安心して学ぶことができると感じている（関係性）」場面をつくりましょう。 [報告書 p24-25](#) [基礎基本 p18-19](#)

□70/72・79/81 ○○の勉強は**大切**だ
【児童生徒質問紙】



□69/71・78/80 ○○の勉強は**好き**だ
【児童生徒質問紙】



事例) 高松市立木太中学校
(3年: 数学「平方根」)

教科のよさを実感できる学習活動

ねらい

正方形の1辺の長さを求める活動を通して、「平方根」の表し方を知る。



どうすれば、
2乗すると、
17cm²になる
1辺の長さを
数で表せるかな。

表せない数を、ルートを使って表す考えを理解する。



その単元、あるいは本時の学習で、どのような思考ができればよいのか、めざす子ども像を具体的に描いてみましょう。

[基礎基本 p28](#) [調査研究 p11](#) [新教員 p33-34](#)

事例) 高松市立協和中学校
(2年: 技術・家庭「テーブルタップの制作」)

考えたくなる課題や 必要感のある課題の設定

課題

(作品としてのテーブルタップを制作するための過程として) 安全に圧着端子を接続する方法を考えよう。



どうすれば、
自分で安全に
使えるテーブル
タップが作れる
だろう。



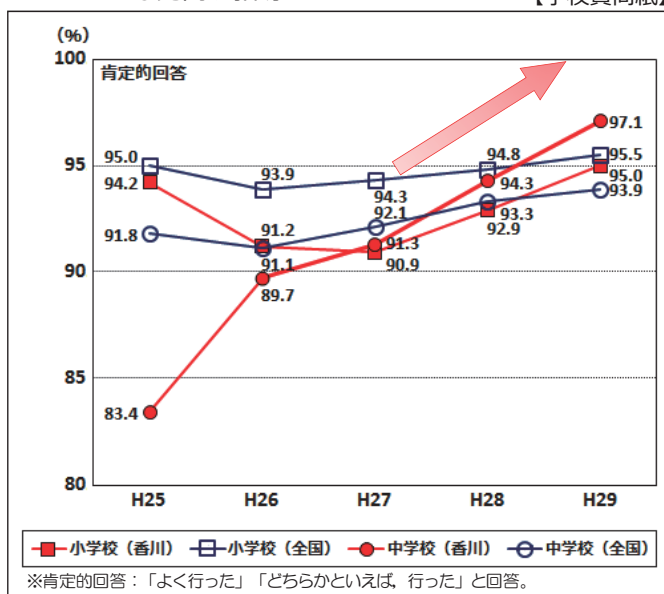
考えたくなる課題や必要感のある課題につながるように、考えるきっかけとなる教材を提示したり、それまでの学習を振り返らせたりしましょう。

[基礎基本 p20](#) [調査研究 p22-24](#)

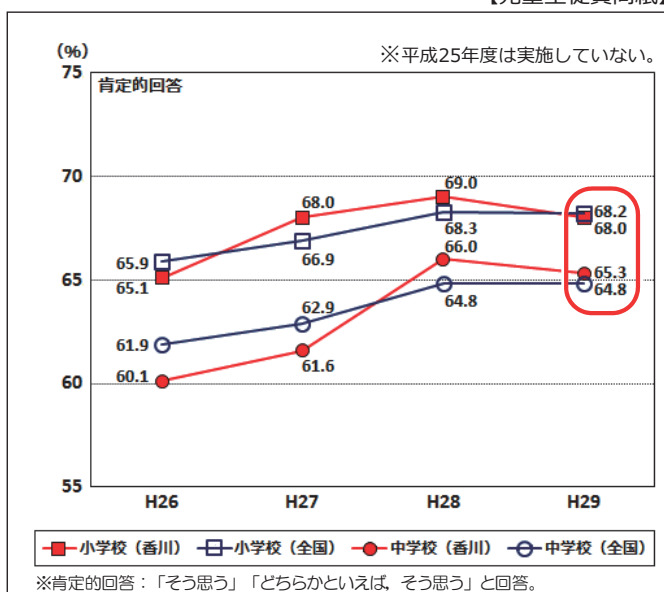
「児童生徒に対して、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか」の質問に対して、香川県、全国ともに9割以上の学校が肯定的な回答をしています。一方、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と肯定的に回答した児童生徒は、香川県、全国ともに6～7割程度となっています。

児童生徒の確かな学力の育成を実現するために、客観的な記録や調査結果、教師間での日常的な情報共有などをもとにし、教師の教えた感覚と児童生徒の学んだ実態の間にズレがないか丁寧に確認しましょう。【報告書 p28-29 基礎基本 p22-25 調査研究 p18-20】

■36 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか 【学校質問紙】



□68/70 学級の友達と(生徒)の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか 【児童生徒質問紙】



事例) 綾川町立綾上小学校
(2年:生活
「おいしい野菜を育てよう」)

めざす児童の姿を明確にし、 形成的な評価と効果的な指導

めざす児童の姿

自分たちと野菜先生の世話の仕方を比べ、その違いに気付き、グループの中で発表することができたか。

評価の観点を持ち、
評価を通して気付きへ

お世話のすごさを見付けているかな

ボードにまとめていく中で、自分たちと野菜先生の違いに気付いているかな



「深く学ぶ」児童の姿を想定し、授業の中で即時的に評価し、児童の気付きを促す。



野菜先生は、野菜の気持ちを考えていると思います。

やさい先生はどんなふうになをされているか

こをあげるおやさいの気もちをかんがえる男の子の
おくりとめたれるぐいまに筆をぬく筆はそのま水やりは
おやさいのようすをかんがえたり水をかけている花のよう
おやさいはのようすを見るえんをかくように水をやる

野菜の立場に立って世話の仕方を考えることに気付いている児童の表現を見て取り、全体交流の場で意図的に取り上げ、全体に気付きを広げ、全体の学びが深まることをめざす。

授業の最終場面の総括的評価だけでなく、形成的評価として、児童生徒の学びの過程を可視化し、その学びを多面的・多角的に捉えることで、「できた」の質的な評価をすることができます。

香川県の小・中学校では、カリキュラム・マネジメントに関する取組が進んでいます。
カリキュラム・マネジメントの充実には、全教職員が教育課程全体から日々の授業について見直し、改善に取り組む意識を高めます。そして、学校に関わる全ての人が連携・協働することで、「社会に開かれた教育課程」の実現にもつながります。

各学校の教育目標を学校に関わる全ての人が共有し、「単元・題材観」「児童生徒観」を踏まえ、児童生徒が「どのように学ぶか」という具体的な学びの姿を考えたり、単元や題材などのまとまりを見通したりして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導方法の工夫、改善に努め、分かる授業をめざしましょう。【報告書 p40-42 調査研究 p40-45 新教員 p2-3

■カリキュラム・マネジメントの3つの側面に関する取組状況 【学校質問紙】

質問番号	質問事項	肯定的回答 (%) - 香川県 (公立) -	
		小学校	中学校
28	指導計画の作成に当たっては、 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点 で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	88.1	68.6
30	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の P D C Aサイクルを確立 していますか	95.6	88.6
31	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な 人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用 しながら効果的に組み合わせていますか	95.6	60.0

※肯定的回答：「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校。

事例) 高松市立牟礼小学校

児童と教師、教師と教師が「学び」のスタイルを共有



児童と児童、児童と教師が「学び」のスタイルを共有



児童が考えた「学び」のスタイルを共有し、児童の「深い学び」を生み出す工夫をしています。

教職員が「学び」のスタイルを共有

「牟礼小アクティブ教師3つの心得」

- 一つ、全てを喋るべからず
- 一つ、正解にすぐ飛びつくべからず
- 一つ、必要性のないグループ活動を行うべからず



事例) 高松市立十河小学校

単元を通した「学び」を社会参加・参画につなぐ



教育活動と地域の人や施設を関連付けた工夫

地域のお店をより良くするために、総合的な学習の時間に自分たちの思いや願いを出し合い、お店の人に伝え実現させる。



日常的に繰り返られるワークショップ型討議

「学び」のスタイルの考え方や手立てを協議して共有し、どの学級でも、子どもが安心して学びに向かえるようにしましょう。

基礎基本 p2-3 調査研究 p44-45

子どもにどのような資質・能力を育むのかという目標を家庭や地域と共有し、各学校の特色を生かしながら、学校の教育目標を実現していきましょう。

調査研究 p7,43